

---

# クロス・ディスティニー

紅月乙葉

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

クロス・デイスティニー

### 【Nコード】

N6285F

### 【作者名】

紅月乙葉

### 【あらすじ】

明るく元気な美少女「古野歌月」と血塗れた過去を持つ美少年「綾野龍也」。ゆっくりと絡み合い、クロスする2つの運命。デイスティニーまつのバッドエンドか？ハッピーエンドか？

## 早朝の『プロローグ』（前書き）

どうも、はじめまして。今作が私の初作品になります。最後まで書き続けるのがまずは目標です。どうか応援よろしく願いします。

## 早朝の『プロローグ』

ピーッピーッピーッ……

「ん……」

目覚まし時計の音が鳴り響き、私はまぶたを開ける。

カーテンの隙間から太陽の明るい光が差し込む自室で目を覚ます私。ピーッピーッピーカチャツ。目覚ましを止め、私は登校の準備をする。

はつきりいつてわくわくしすぎて昨日はあまり寝ていない私は少しばかり眠気が残っている。

日が指しているとはいえまだ6時半。

私の家では料理を作るのは私の役目なので平日はだいたいこの時間に起きることになる。

2階建ての一軒家に住む私の部屋は2階にあるので制服に着替えた私は1階にキッチンへ向かう。

1階のキッチンはリビングと繋がっていて、リビングから料理しているところが見える構造になっている。水道を使うときはリビングが見えるようにできている。ちなみに火を使うときはリビングに背を向ける形になる。

私が目玉焼きを作っていると後ろから声を掛けられる。

「おはよう。歌月」

「おはようお母さん。もうすぐで朝食できるから天気予報みておいてー」

「はい」

どっちが親なんだか……ね？

これが私、古野歌月（ふるのかづき）の高校入学式の朝。

## 早朝の『プロローグ』（後書き）

とりあえず誤字脱字は気をつけます。

## 忙し【プロローグ】（前書き）

それぞれ歌月視点と龍也視点からそれぞれ一話ずついくつもります。

忙しい【プロローグ】

[illegible]

「ふあ？・・・」

[illegible]

• • • • •

ジリリリバンツ。

「うん、うん。」

眠いと訴える体に鞭打ち起こす。カーテンを閉めていなかったらし  
く部屋の中は明るい状態だった。

昨日までは学校が無かった俺はまだ今日が休みのような気分のままだ。

「龍也——朝食——」

「ういす」

下からの姉さんの声がしてきたのでいつも通りの返事をする。まあいつも下まで届いているか微妙なところだけど……。

俺はとりあえず洗面所で顔を洗い、髪のを毛を整えてから朝食の待つテーブルへ向かう。

「おはよう。姉さん」

「はい、おはようって！？龍也が身支度をしてから来た！？」

「俺ももう高校生になるんだぜ？しっ  
かりしないとだろ？」

「そうだね、我麗しの後輩よ」

⌈  
•  
•  
•  
•  
•  
•  
⌋

「……あれ、なんか白い目で見られてるんですけど」

「よろしく！先輩姉さん」

⌈  
•  
•  
•  
•  
•  
•  
⌋

「……あれ？今度は俺の番ですか？」

「  
「  
・  
・  
・  
・  
」  
」  
沈黙。

これから約10分微妙な空気のにらめっこをした俺と姉さん。なに

やってんだかなあ。

10分続いた『微妙な空気のにらめっこ』を先に終わらせたのは姉さんだった。

「あ、そういえば。私は生徒会でもないからいつもより遅くにいつていいんだけど龍夜は新入生だよね？」

「あつ」

そう。今日は高校の入学式。在校生は入学式には参加しない。参加するのは生徒会のみなさんぐらいだ。

『東雲学園』（しのめがくえん）の入学式は新入生は入学式をした後各クラスに分かれてまあ色々あるわけだ。その色々を在校生の新2・3年生はクラス替えによってあるわけだ。よって、新2・3年生はその色々にしか今日は用が無いため、新入生の入学式分遅れて行つていいわけであつて・・・ああ！！こんなことしている間に遅刻するうー！！

「やべえひややきゆたべちえいかにええと！」

「食べながらしゃべらない」

「んっごくん。ごちそうさま！」

「はい。お粗末さまでした」

俺はかばんを持つと急いで家を出る。

遅刻する~~~~~!!!!!!

高校入学式。忙しい朝を迎えた俺こと、綾野龍也（あやの たつや）だった。

たつやだぜ？りゅうやつて読むなよ・・・。



## 忙し【プロローグ】（後書き）

どうぞ感想とくださいな。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6285f/>

---

クロス・ディスティニー

2010年12月12日12時22分発行